

平成28年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(通級による指導担当教員等専門性充実事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (香川県教育委員会)

1. テーマ

「通級による指導香川県方針」拠点校方式による、通級による指導の充実
ー通級による指導における指導形態や開始と終了のあり方や、通級指導教室担当
教員等に対する研修体制の充実についての研究ー

2. 問題意識・提案背景

香川県では現在、特別支援学校に1校、小学校に21校の通級指導教室を設置しているが、中学校への設置はなく、学校現場のニーズに十分応えられていない。また、通級による指導の指導形態や開始と終了のあり方や、担当教員の専門性向上、各学校への理解啓発等について課題が挙げられる。そこで、「通級による指導香川県方針」として、現在設置されている通級指導教室を地域の拠点校として、担当教員が複数校を兼務して指導する拠点校方式を推進することとした。

本事業では、モデル地域拠点校において、「通級による指導香川県方針」で提唱した拠点校方式の効果や課題についての検証や、通級による指導開始時の目標設定や終了に向けた評価手法等について研究を行うことにより、通級による指導の充実を図るとともに、外部関係機関との連携により、担当教員等に対する研修体制の充実や各学校の教職員への理解啓発を図ることとした。

3. 目的・目標

モデル地域拠点校における通級による指導の目標設定や評価方法等についての研究や、通級指導教室担当教員等に対する研修体制の充実等について、関係機関と連携しつつ研究を行うことで、「通級による指導香川県方針」で提唱した拠点校方式の充実を図ることを目的とする。

モデル地域拠点校においては、専門性の高い指導員を外部から招き、通級開始時における目標設定や終了に向けた評価についての手法や、通常の学級担任等との連携の在り方等について実践を行い、有効である方法について明らかにする。また、通級指導教室担当教員等の専門性向上については、外部指導者による専門的立場からの指導助言を受けることで研修の充実を図り、関係機関との連携による研修体制構築について協議する。さらに、通級による指導の普及啓発を図るため、通級による指導に関するリーフレット等を作成して、各学校に配付する。

4. 主な成果

(1) 拠点校方式による効果の検証

担当教員が、兼務校に一日又は半日勤務することによる効果

- ・対象児童生徒の日常の様子を観察でき、タイムリーな指導ができた。
- ・対象児童生徒の担任や保護者との話し合いの時間がとりやすくなった。

(2) 通級指導教室担当教員等に対する研修体制の充実

新任担当教員への研修機会を年間 2 回から 4 回に増加した。また、外部専門家の活用により、研修内容の充実を図ることができた。

- ・ 新任担当教員を対象とした研修を、今年度より年 2 回実施。
- ・ 担当教員研修会において、外部専門家 4 名による助言や講評を実施。
- ・ 高松市設置校 3 校による、担当教員対象の公開参観研修を実施。

5. 通級による指導における専門性のポイント

通級による指導における専門性として考えられるポイント

- ・ 実態把握（アセスメント）から具体的な指導・支援の手立てを考えるスキル
- ・ 障害特性に応じた指導内容や方法等の知識（「自立活動」の理解と実践力）
- ・ 学級担任、特別支援教育コーディネーター、管理職等との連携や調整力
- ・ 保護者等との連携、教育相談

新任担当教員を対象とした研修では、障害特性に応じた指導内容・方法等の知識を高めるために、自立活動等の指導内容や教材・教具の紹介等を実施した。

担当教員研修会では、グループに分かれて、担任や保護者との連携のあり方や、指導内容等についての情報交換を行い、外部指導者からの指導助言を行った。

6. 拠点校における取組概要

①通級による指導開始時における目標の設定及び適切な評価の在り方の研究

- ・ できるだけ具体的で少し努力すれば達成できそうな項目について目標を設定。学級担任、担当教員、保護者、本人が目標を共有すれば効果大。
- ・ 行動面や対人関係においては、「ソーシャルスキル尺度」を活用し、行動面での課題を可視化、数値化し、客観的な実態把握の手がかりとなるものとして導入。
- ・ 「個別の指導計画」を活用した評価を実施。達成度を数値化（例：9割達成）や、◎、○、△で表す等、目に見える評価を行い、終了の基準とした。

②通級による指導の担当教員が通常の学級の担任との連携を深化させるための専門性の在り方の研究

- ・ 「個別の指導計画」を介して、担当教員と学級担任等で指導目標、評価の共有。
- ・ 「連絡ファイル」を活用して担当教員と学級担任等との連携。ファイルに、個別の指導計画で記した目標を記載し、いつでも目にするように工夫。
- ・ 通級担当教員による通常の学級の観察や入り込みによる、実態把握や通級による指導の検証、担任への助言。
- ・ 担任への、子供の見方、関わり方を変えるための支援、共通実践。

③発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導方法の研究 具体的な指導

- ・ 認知トレーニング（点つなぎや図形の模写、タングラム等細部を見る練習など）
- ・ SST（イライラを解消する方法や落ち着くための方法の体得等）
- ・ 集中トレーニング（落ち着いて学習に取り組めるように数の聞き取り、言葉の聞き取り課題など）
- ・ ライフスキルトレーニング（家庭と連携した整理整頓の指導など）

④通級による指導における発達障害の状態に応じた各教科の内容を補充するための特別の指導方法の研究

- ・「できた」「分かった」が実感できる指導内容の工夫。
- ・補充的な指導ではなく、先取りした指導を実施。通常の学級で自信をもって発言。
- ・通常の学級での活動とつなげ、解決に「つなげる声かけ」を意識。

7. 今後の課題と対応

(1) 拠点校方式による通級による指導の効果の検証

以下のような点において、今後も検討が必要である。

- ・中学校における指導体制や指導内容、小学校通級指導教室との連携等
- ・地域の実情に応じた拠点校方式のあり方

平成 29 年度は、モデル地域を変更して、効果や課題の検証を実施予定。

(2) 通級指導教室担当教員等に対する研修体制の充実

以下のような点において、今後も検討が必要である。

- ・通級指導教室担当教員等への研修機会の拡大
- ・専門性向上のための研修内容の充実

平成 29 年度より、新規に、「通級指導教室公開参観研修」と香川大学との連携による「通級フォーラム」を実施予定。また、外部指導者を活用したワークショップを取り入れるなど、研修内容の充実を図る。

8. 拠点校について

拠点校名：高松市立高松第一小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	114	4	108	4	108	4	110	4	102	3	100	3
特別支援学級			4		4		5		2		4	
通級による指導 (対象者数)	0		1		1		0		0		1	
	校長 副校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	2	2	31	1	7	1	2	3	1	1	51	

拠点校名：多度津町立多度津小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	49	2	47	2	54	2	42	2	51	2	58	2
特別支援学級			0		1		1		0		2	
通級による指導 (対象者数)	0		1		0		2		1		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	19	1	3	0	1	3	0	4	33	

9. 問い合わせ先

組織名：香川県教育委員会

- (1) 担当部署 香川県教育委員会事務局特別支援教育課
- (2) 所在地 香川県高松市天神前6番1号
- (3) 電話番号 087-832-3757
- (4) FAX番号 087-806-0232
- (5) メールアドレス tokubetsushien@pref.kagawa.lg.jp